

図書館利用教育Webコンテンツ “KUL GATEWAY〈関西大学総合図書館案内on the Web〉” 制作レポート

山本 亜希子

はじめに

本学図書館は、学生及び教員への教育・研究支援という基本的使命を踏まえ、その基盤を提供してきた。「学術情報の中枢機能を担う」というミッションに基づく図書館ビジョンを策定し、諸活動を行っている。なかでも、学部学生への利用指導・利用案内については、図書館蔵書検索システムの使い方など、学生がそのレベルとニーズに合わせて段階的に受講できるガイダンスを積極的に実施してきている。

しかるに近年、大学図書館を取り巻く情報環境等の変化により、図書館利用教育の目的は、これまでの「利用方法の習得（コンピュータリテラシー）」から「情報活用能力（情報リテラシー）の養成」への移行が必要といわれるようになった。そこで、こうした従来からの取り組みをより効果的なものにしていくため、学生が主体的に情報を「収集→分析→判断→創作→発信」できる能力、いわば、課題解決アプローチを自立的に行うことのできる能力を養うための、情報倫理や情報リテラシーの向上を促す新たな図書館利用教育の方策を模索した。その結果、平成14年度に図書館が主体となって利用教育・利用指導に関する実験的な企画を実施した。これが「2002リフレッシュ企画」であり、詳細については、『関西大学図書館フォーラム』第8号（2003）において報告されている。

この企画の成果を踏まえて制作されたのが、本年度公開した図書館利用教育用Webコンテンツ「KUL GATEWAY～関西大学総合図書館案内on the Web～」である。筆者は、「2002リフレッシュ企画」推進チームメンバーとして活動後、本コンテンツ制作及び公開までのプロジェクトに携わった。以下、その内容を報告する。

I 本コンテンツ制作の経緯について

1 Starting Point

平成14年度：館内において「2002リフレッシュ企画」推進チーム発足。14年度 関西大学特別研究・教育促進費（学部教育リフレッシュ予算）申請、採択。

- ・課題：「実験的図書館利用教育・利用指導の実施」
- ・企画内容：「体験実習型ガイダンス」の実施及び「フロアアシスタント」の実験的配置

2 文科省COL（特色ある大学教育支援プログラム；現「特色GP」）への挑戦

前述の「リフレッシュ企画」終了後、その成果を踏えて、COL申請用として新たなプロジェクトを提案。○プログラム名称

『大学図書館による「実践知性」養成プログラム（“学^{まな}vision”の構築）』

→①文献情報利用教育プログラム（TA制度）②情報発信能力養成プログラム③高大連携の強化

特に、②において、大学図書館におけるe-Learning（情報リテラシー教育）プロジェクト（年次計画；第1弾～第4弾）を検討、計画調書を提出（→学内選考の結果、不採用となった）。

3 図書館ガイダンスのさらなる展開

平成15年度：前年度企画の成果、評価を踏まえて、前述「体験実習型ガイダンス」「フロアアシスタント」の両事業について経常費予算が配賦され、通常業務として実施されることになった。また、ワークショップ型・出前出張型といった新たなガイダンスプログラムが追加された。

4 利用教育用 Web コンテンツ制作着手

次年度（平成16年度）予算申請に向けて、前述“学 vision”の内容について検討を再開。年次計画の初年度として、「図書館バーチャルツアー」「KOALA チュートリアル」の2本のコンテンツ制作について、予算申請し承認された。

5 平成16年度5月“KUL GATEWAY<関西大学総合図書館案内 on the Web>”完成、公開。

II 本コンテンツ制作の趣旨について

1 本コンテンツは、本学図書館が従来実施している利用教育・案内をより効果的に展開するための Web ツールとして制作された。

これまで本学図書館では、学部教育導入期における図書館利用教育として「新入生オリエンテーション」及び「図書館ツアー」を行ってきた。しかしこれらの行事は、参加者からは一定の評価を受けているものの、年度当初の繁忙期に集中的に実施されるため参加率が低くなる傾向があった。そこで、利用者がいつでも好きなときに繰り返し必要な事項を学習できるよう、新入生オリエンテーションと図書館ツアーの両方の要素を持ったコンテンツを Web 上に展開し、利便性の向上を図ることを意図して制作された。よって、実際のオリエンテーションやツアーに参加した学生が復習することができるだけでなく、参加できなかった学生もオンデマンドで自学自習できる仕組みとなっている。また、新入生だけでなく、他の利用者にとっても、図書館になじめるよう、図書館利用促進の願いも込めている。

2 図書館における情報リテラシー教育支援計画の“第1弾”として制作された。

前述のプロジェクトにおいては、第1弾が図書館入門編として本コンテンツを企画し、第2弾以降は、文献の探し方初級者向け～上級者向けといった、文献情報探索用各種プログラムを段階的に制作し、より効果的な図書館利用者教育のポテンシャルを探ることを企図していた。

3 学内外への図書館広報（PR活動）の一環としても制作された。

図書館利用者だけでなく、学内外の方々にも図書館の施設、サービスを広く紹介できるようにした。

通年、各機関の方が図書館見学のため来館されるが、遠方の方にとっては、実際に足を運ばなくても本学図書館の概要、内部が Web 上で体感できるようにした。また、受験生・父母に対し、大学選びのための情報提供も行えるよう意図した。入学試験部が主催するオープンキャンパスや見学会では、図書館見学もプログラムに含まれているが、本コンテンツを公開することにより、関西大学の知のシンボルである図書館について、必要な情報を随時入手することができ、関西大学のイメージアップにつながることを目的（大学広報の一環）としている。入学試験部や各学部事務室のHPともリンクを設定する予定である。

4 「図書館ビジョン」の具現化

平成10年12月に策定された「関西大学図書館がめざす方向（図書館ビジョン7項目）」のうち、第1項目（学術情報を提供するためのメディアの多様化に対応しうる図書館をめざす）及び第3項目（インターネットなどを通じて積極的な広報活動を推進し、関西大学図書館の存在と特徴をアピールする）の具現化であるといえる。

III コンテンツの構成等について

1 名称“KUL GATEWAY”について（ネーミングコンセプト）

“KUL”は、“Kansai University Library”の略である。“GATEWAY”は、「入口、通路」が元々の語義であり、「成功への道」という意味もあることから、ここにおいては、「図書館入門」及び「図書館徹底活用への道」をコンセプトとしてネーミングした。



オープニングムービー画面

2 概要

仕様は、Flash、QuickTimeVR、ビデオ映像、音声等、リッチメディアを駆使したアニメーションコンテンツであり、以下のように構成されている。

オープニングムービー

トップメニュー画面

※オープニング4番目(ラスト)のシーンが、TOPメニュー画面となる。

①メインメニュー

フロア案内

バーチャルツアー

②サブメニュー

フロアウォーク

パノラマビュー

③付録

KOALAチュートリアル



トップメニュー画面

〈以下画像順に、フロア案内画面・バーチャルツアー画面・フロアウォーク画面・パノラマビュー画面〉



3 各メニューの特徴について

(1) オープニング

① APPEARANCE ② LOCATION ③ APPROACH ④

MENUの4つのシーンから構成されている。まず、総合図書館を①外観、②立地環境、③大学正門から図書館までのアプローチ、の3つのアングルから捉え、それぞれを効果的に表現する画像と英文コピーを使用している。また、この英文コピーには、“KUL GATEWAY”のネーミングコンセプトも間接的に表現されている。各シーンの文末の“for success”が韻を踏む形で、オープニングラストで表示される“GATEWAY for success”というコンテンツタイトルへとさりげなく導いているのである。

※ 業者から提示された3案の中で、こちらがイメージしていたもの一番テイストが似ていたものを採用した。あえて、従来の図書館や大学のイメージとは異なるドラスティックな仕上がりを希望した。企業のコマーシャルのデザインをイメージしたが、それでいて、大学のスクールカラーに近いブルー（大学の各種パンフレットでもよく使用されている色）を採用することで他と統一性を保たせている。

(2) フロア案内

各フロアをコーナーごとに分け、動画と平面図を対応させて分かり易く紹介している。各フロア画面には、別途フロア詳細図も用意されている。コーナーごとの説明文が動画とともに流れ、館内のフロアプランを俯瞰して把握できるようになっている。また、画面を順番に見ていくだけでなく、前のコーナーに戻ることや次に進むこと、さらには、画面のどこからでも、見たいフロアやコーナーだけを選ぶこともでき、ユーザビリティを向上させている。

このメニューは、利用教育・案内用ツール（Web版利用案内）であり、主に、新入生を始めとする学生及びその他図書館利用者をターゲットに想定している。実地型ガイダンスを補完するものであり、ガイダンスに参加できなかった者でも自分で確認でき、ガイダンス参加者にとっても、オンデマンドでレビューできる仕組みとなっている。

(3) バーチャルツアー

「フロア案内」のダイジェスト版。「フロア案内」がじっくりと詳しく説明しているのに対して、こちらは「フロア案内」の内容をサマライズし短い時間で総合図書館の全体像を概観することができる。全編Flash（Webアニメーションツール）で構成され、短編映画を観る感覚で、建物のイメージがつかめるようになっている。

名前のとおり、図書館エントランスホールから入って1階→2階→3階…と順に見学しているような流れになっている。図書館のコマーシャル・ムービーのようなイメージも持たせており、あえてテキストは入れておらず、Flashアニメーションのみでスピーディに流している。また、BGMも採用し、よりアップテンポに仕上げている。こちらは、主に受験生やその父母、学外一般者をターゲットと意識している。

(4) フロアウォーク

「フロア案内」の中の1機能。フロアごとに、1～2カ所設定したルートを選択すると、ルートに沿って左モニターに実際の館内映像（ビデオ）が流れると同時に、平面図のルート線上をブーツのマークが歩いていくように動くことで、現在どこを歩いているか分かるようになっている。館内の様子がよりリアルに表現されており、フロアを散歩する感覚を体験できる。映像については、目線の位置をあえて低くすることで、広さ、

臨場感を効果的に見せている。特に、地下書庫は、どこまで書架が続いているのだろうと、その広さを体感できる。

(5) パノラマビュー

「フロア案内」のもう1つの機能。フロアをパノラマで見渡すことができるよう、各フロア1～2カ所ビュースポットを決め、フロア図の中のポイントを選択すると、別ウインドウでパノラマ画面が表示される。これは、QuickTimeのVRという機能を使って、画像をドラッグすることで自由にパノラマが楽しめる。また、ズームイン・アウトを行うことができ、ユーザーが自由に動かすことができる仕組みとなっている。

元の画面上では、同時に、左のモニターにおいて選択ポイントの画像が1周するようになっているので、VRを使えない環境の人でも様子が分かるようになっている。

(6) KOALAチュートリアル

蔵書検索システムKOALAのオンラインチュートリアル（教材）。当初は、Flashを使用した動きのあるコンテンツを予定していたが、コスト、スケジュールの両面から困難となり、スケールダウンさせた。位置づけも、メインメニューとしてではなく、「フロア案内」のKOALA用端末コーナーからのリンク画面とした。

4 コンテンツのブラウジングについて（オペレーション）

図書館HPトップ画面の、「User'sガイド」メニューに掲載。クリックすると、トビラページが表示される。本コンテンツは、ブロードバンド対応となっており、最新のFlash Player及びQuickTimeが必要である。コンテンツの紹介及び閲覧に関する注意書きと各ダウンロードサイトのバナーを掲載したページを用意した。中央の専用バナーをクリックするとコンテンツが始まる。既存の図書館HPのサイト設計及び管理は別の組織が所管となる関係上、本コンテンツのイントロ・ページは当面このようなスタイルで提供されることになる。

バナーをクリックすると、コンテンツが表示されオープニングが開始する。途中でSKIPボタンを押してスタートメニューに飛ぶこともできる。

スタートメニュー画面において、各メニューをマウスオーバーで選択するとそれぞれのメニューの説明が表示される。クリックすると、各メニュー画面に遷移する。

(1) バーチャルツアー

ポーズ・再生ボタンあり。

(2) フロア案内

トップ画面：フロア全体の説明。フロアボタンをマウスオーバーで選択すると、各フロアの説明文に変わる。クリックすると、フロア案内画面が表示されスタートする。

各フロアトップ画面：コーナー名（兼目次）と平面図が表示されている。コーナー名を選択すると平面図の該当エリアがオレンジ色で点滅する。目次、平面図のどちらをクリックしてもスタートする。

1 F 展示室：ウェブサイト「関西大学図書館電子展示室」へのリンクあり。

1、2 F：K O A L A チュートリアルへのリンクあり。
フロア詳細図

(3) フロアウォーク

メインメニューからでも、フロア案内からでも起動できる。

左モニター下のフロアセレクトボタンで各フロアに移動する。※右端のフロアボタンはフロア案内へのリンクボタンである。

スタートするとモニターに映像が流れると同時に、右の平面図のブーツマークがルート線上を移動する。

(4) パノラマビュー

メインメニューからでも、フロア案内からでも起動できる。

別ウィンドウでVR画面が表示される。ドラッグするとパノラマが楽しめる。ズームイン、アウトボタンを押すと自由に動かせる。

左モニター下のフロアセレクトボタンで各フロアに移動する。※右端のフロアボタンはフロア案内へのリンクボタンである。

IV 今後の運用方針について

本コンテンツは、図書館HPコンテンツの一部であり、本来は、ウェブサイト運営委員会において一元管理することが望ましい。しかし、現状では無理ということであり、当面は、閲覧参考課が所管として管理、運用していくこととなる。そのため、本コンテンツのみ外部業者のサーバに格納し、管理を外部委託（業者のレンタルサーバサービスを利用）する。サーバ機器設置場所は、学外のサーバセンターで、業務委託契約業者を通じて管理依頼する。委託業者との調整窓口は、閲覧参考課が行う。ただし、今後、どこが主体となりどのように運用、管理していくのかについては、検討を要すると思われる。また、運用の際には、アクセス数を把握し、その統計結果に基づき、PR方法の改善や次回以降のコンテンツ

制作企画に関する検討を行うことも必要であろう。

V その他 今後の課題等について

1 閲覧（利用）環境の問題について

本コンテンツは、前述のとおりブロードバンド対応となっており、最新のFlash及びQuickTimeVRが必要である。また、サウンドも使用している。だが、図書館内のインターネット用パソコンは現在対応できていない部分がある。これについては、今後どのように環境を整えるか検討し、必要であれば次年度予算申請に向けて準備等をしなければならない。

2 今後の計画について

本コンテンツは、図書館利用教育支援強化のためのWebを利用したデジタルコンテンツを段階的に制作し、大学図書館におけるe-learningシステムを展開する目的で、計画の第1弾として制作されたものである。今後、どのように計画を推進し、展開させていくかについて、引き続き検討が必要であると思われる。前述の運用方針も含め、現所管部署とウェブサイト委員会等関係組織との間で協議し、方針を定めることが必要であると思料する。

おわりに

本コンテンツを平成16年5月にHP上で公開して以来、見学者用図書館パンフレットのみならず学内他部署発行の各種印刷物にその内容を紹介してきた。また、各学部事務室等他部署のHPにリンクを設定してもらったおかげで、ユーザーのアクセスルートが拡がりアクセス数も徐々に増加してきている。せっかく制作したものを「宝の持ち腐れ」化とさせてしまわぬよう、積極的にPRし利用者に提供するとともに、今後の図書館利用教育並びに情報リテラシー教育に供するスタンスを忘れてはならないと考えている。

参考文献

『関西大学図書館フォーラム』第8号（2003）

（やまもと あきこ 企画調査課 前運営課）